

世界の未来は日本次第

長谷川慶太郎・渡邊哲也 発行・PHP研究所

リーマンショックによる金融混乱と弱体化により世界は「金融主導型社会」から「実体経済主導型社会」へ変化しつつある。

グローバル化とは金融を主体化したもので金融の弱体化により世界の流れは大きく逆転、実体経済は物を作る技術とそれを支える人材・物づくりを大切にす文化であり、日本は世界を主導できる立場にある。

{ 失われた20年 }

最大の失敗は、デフレ下で公共事業を大きくカットしたこと「コンクリートから人へ」の民主党の方針が結果として建設業界における人手不足・景気回復の足かせになった。

{ 韓国の製鉄最大手POSCOの背信 }

2012年、新日鉄は訴訟を起こした、中国の宝山製鉄が公然と世界一流の電磁鋼板（新日鉄の技術）をPOSCOから技術供与を受けたので生産できると。

{ 日本製のレールがないと世界の鉄道が動かない }

オバマ大統領が2014年4月来日した際「日本に技術供与をお願いしたい・具体的には鉄道だ」と、1mあたり80kgのレールは日本にしかない、通常の60kgでは脱線事故が多く発生し大量かつ重量物の輸送に適さない。

{ 中国は金詰まりで SHIPPING ローンが組めず

造船業界は壊滅状態 }

国営銀行が造船メーカーを潰しにかけ今残っている6社もSHIPPINGローンが組めないで風前の灯火。

2014年は日本の造船業が潰れる年と言われていたが中国系の船主がキャンセルした新造船の注文を日本に出して好況に転じた。

{ 2014年の香港民主化デモに業を煮やした中国外務省 }

香港の民主制度を英国から返還後も（1997年）50年間保証するとの約束を「無効」と通告した。

イギリスの金融資本であるスタンダード・チャタード（香港ドルの発券銀行）は株式部門からの撤退と金融業務の縮小を発表、中国政府が国際金融の信用を失い、資本逃避が本格化の可能性も出てきた。

{ アリババは中国から資金を海外にシフト }

2014年9月19日ニューヨーク証券取引所に上場したアリババは電子商取引最大手で、売り上げは中国オンライン商品取引の約8割を占め年間扱いは30兆円。

{ アジア通貨危機で韓国がデフォルトを回避できた真相 }

1997年、当時の金泳三大統領が小淵総理に直接電話して「貿易決済の為の外貨準備が100億ドル不足している、助けてほしい」との申し出があった。

総理大臣権限で米国の銀行に預託していた資金を韓国の銀行に移した、その後、韓国はIMFからの出資金で返済、それ以降金大統領は反日活動を止めた。

{ 日本のインフラ輸出9兆円に }

2012年の3兆円から大きく動いたのは安倍総理が就任以来、50ヶ国を訪問しトップセールスを展開したこと、インフラやプラント分野では世界全体が日本を頼るしかない、前述の80kgレールでは注文が世界中から殺到して左団扇の状態、2015年以降、重厚長大産業が再び見直される、BtoG（ビジネス・トゥー・ガバメント/企業対行政間取引）では相手国政府対策では、民間負担軽減面からODAの配慮も必要、その点日本は世界の純債権国という地位を22年間維持し資金は潤沢、又金融機関の三大メガバンクも健在。

{ 新流通システム導入で流通先進国アメリカを追い上げる }

米国のユナイテッド・パーセルサービスという世界最大の日本郵政のような会社の物流センターでは25万平方メートルの敷地に従業員1000人だけで、人影を探すのに一苦勞、年間貨物取扱量は1000億個、自動倉庫を全てコンピューターでコントロール、日本ではアマゾンがヤマト運輸と日本郵便を使い分けている。

日本で一番進んでいるのは日産自動車の相模原部品センターで在庫の把握管理が1個に至るまで完全にできている。

{ リースバックで分かる日本車への高い信頼率 }

リース期間終了後の評価額は日本車ホンダ・シビックで約75%、アメリカ車はシボレーが漸く40%。

スポット溶接用のロボットの精度は極めて高く、日本車は車体を組み立てる際の必要箇所92%がロボット化されている、アメリカでは、15%に過ぎない。このようなシステムのベースとなる工作機械の制御装置で世界首位のメーカーがファナック、富士山・山麓にある工業群では世界でたった一つしかない「**照明のない工場**」がある（天皇陛下が視察）、生産がロボット化されているので照明がいらない、光熱費が下がり・温度調整が安定し経費軽減と加工精度が高まる。

{ 工業生産と一体の再生品リサイクルシステム }

愛知県豊橋市にあるトヨタ田原工場は世界で一番大きい組み立て工場、その近くに東京製鉄電炉工場がある、トヨタの工場から出てくる鉄くずを引き受け、リサイクルしている、効率的で無駄のないこのシステムは世界でここだけ。

戦後の統計から日本が生産した鉄鋼は25億トン位、これを20年で償却するとすれば1年に1億2千万トンの鉄くずが出てくるので輸入は激減可能性も、鉄鋼一貫方式の製鉄所と電炉工場と同じ鋼材を作るのに必要な電気消費量は電炉工場では五分の一で済むので今後おそらく日本の鉄鋼業は変わる。

{ 見えない分野で世界トップオンリーワン企業が日本は沢山ある }

鉄鋼生産で2000度以上の高温下で15年連続使用しても消耗せず傷みもしない炭素煉瓦のメーカー東洋酸素は世界で1社のみ。

耐火煉瓦の東海高熱工業も圧倒的NO1企業。

安倍総理がトップセールスで売り込んだ石炭ガス化複合発電プラントも世界でオンリーワン。

レントゲン装置も日本メーカーが強くて一番進歩しているのは三菱電機・同社は世界で一番優秀な暗号機器も制作している。

「コルゲンコーワ」シリーズの興和(株)はライフル射撃などに使われる照準器の世界的メーカーでほぼ独占・オリンピックでも全て同社製を使用。

「原発の心臓部を収納する格納容器」これがないと原発は作れないが世界で3ヶ所の製造工場はいずれも日本で受注が溜まりにたまって納期は3年に、これを作るプレス機は1万5000トンの超大型機で一台増設中（680億円）

{ 一流と言われている工作機械のマーケットシェアーは

日本が世界NO1 }

戦前1万5000トン大型水圧プレス機があって戦艦大和・武蔵の主砲砲身を叩いた、世界最大級の46センチ砲の製造を自前で作成していた。

工作機械の世界生産は中国が1位、ドイツが2位、日本3位、 P 3

しかし1流といわれるマーケットでは世界シェアの27%は日本、2位ドイツ12%、3位スイス9%、で中国製品は早く壊れて使い物にならない。

浜松市の「エンシュウ」は精度・コスト面で世界NO1.

中国向けの日本製工作機械や建設機械は全てCOD（代金引き換え）で円高でも売れてメーカーの「コマツ」はかなり稼いでいる。

自動車のエンジン基幹部分のピストンリングは世界シェアの約2割を握るリケン、および日本ピストンリング・TPR（旧帝国ピストンリング）を含む数社で世界市場をほぼ独占。

液晶パネルの偏光板の保護フィルムは富士フィルムが世界シェアの約7割、カラーフィルター向けのグリーン顔料はDIC（旧大日本インキ化学工業）が約7割を占めている。

{ 年間2兆円を超える特許ビジネスが日本の新たな稼ぎ頭になる }

特許取得件数のトップはキャノン、一番稼いでいるのは日立、第二位は東芝、第三位は三菱電機の重電三社で高度な技術を要する素材開発は欧米を含めて他国は真似ができないから日本は強い。